

日本茶 AWARD の概要

1. 品評会の特徴

日本茶 AWARD は「新たな時代に適応した価値あるお茶の発掘と創造を通じ、日本茶のもつ幅広い魅力を国内外に発信する」ことを目的に、**2014 年に創設された全国的な日本茶品評会。**

本品評会は、茶の原材料である「荒茶」を対象とする従来の品評会とは違い、生活者が実際に飲む段階の「仕上茶（製品茶）」を評価する。**国内における仕上茶の品評会として最大規模で、製法や産地、品種の枠を超えて多様なスタイルの日本茶が出品されている。**

2. 出品部門及び審査方法

出品部門は、以下の 15 部門

①合組(ブレンド)茶部門	②二番茶煎茶部門	③烏龍茶部門	④紅茶部門	⑤後発酵茶部門
⑥ほうじ茶部門	⑦萎凋煎茶部門	⑧釜炒り茶部門	⑨蒸し製玉緑茶部門	⑩普通煎茶部門
⑪深蒸し煎茶部門	⑫煎茶ティーバッグ部門	⑬フレーバーティー部門	⑭フリースタイル部門	⑮有機茶部門

※「土佐烏龍 Prototype」は『③烏龍茶部門』に出品

「下記のとおり、審査は複数段階で構成」

- (1) 一次審査：専門審査員によるブラインド評価。香り・味・水色を総合的に判定
- (2) 二次審査：より詳細な専門的評価を実施
- (3) 三次審査：一般参加者が実際に試飲し、消費者視点で評価

3. 直近の出品・今年の審査状況・過去の県内受賞者

直近の開催における出品点数は概ね 500～560 点前後で推移しており、今年度で開催された『日本茶 AWARD2025』においては、503 点の出品があった。

「日本茶 AWARD2025 の審査状況（R7.11.18 時点）」

- 一次審査 2025 年 8 月
- 二次審査 2025 年 8 月 31 日、9 月 7 日
→高宇政光賞を含む、計 74 点の受賞茶が決定
- 三次審査 2025 年 10 月中旬～11 月上旬に審査
→受賞茶の中から、一般審査員による審査を行い「日本茶大賞等」を決定（R7.11.29 発表予定）

「過去の県内受賞者」

2018 年 ファインプロダクト賞 普通煎茶（無被覆）部門 池川茶業組合
2021 年 審査員奨励賞 普通煎茶部門 茶と文

4. 高宇政光（たかうまさみつ）賞について

『高宇政光賞』は日本茶 AWARD2022 から新設された賞で、その年の出品茶の中から、日本茶 AWARD の発起人である故高宇政光氏が、生前に好んだと考えられる優秀な茶に授与される賞。高知県産茶の受賞は有限会社村田園芸の「土佐烏龍 Prototype」が初めて。